

平成14年度の用途別給水戸数と給水量
(カッコ内は平成13年度)

用途別	給水戸数 (戸)	年間給水量 (立方メートル)	1日1戸当たり 平均給水量(リットル)
家事用 (一般家庭用)	20,123 (19,994)	3,485,625 (3,502,724)	475 (480)
家事用以外 (業務・公共用)	1,326 (1,306)	987,811 (1,088,575)	2,041 (2,284)
公衆浴場用 (銭湯用)	4 (4)	42,413 (50,211)	29,050 (34,391)
臨時用 (工事用)	145 (27)	4,468 (2,334)	84 (237)
合計	21,598 (21,331)	4,520,317 (4,643,844)	573 (596)

給水の状況
私たちが、水をどれくらい使っているのでしょうか。
水を使う家庭の数(給水戸数)は年々増え続けています。平成14年度末で2万1千598戸と、前年度に比べ267戸増加しました。
また、みなさんが使った水の使用量(年間給水量)は452万317立方メートルです。前年度に比べ12万3千527立方メートル減少しました。この原因は、家事用では人口の減少、家事用以外などでは長引く景気低迷の影響によるものと考えられます。
なお、1日の使用水量を1人当たり換算すると約231リットルの水を使用したこととなります。前年度に比べると6リットルの減量となっています。

一人1日231リットルの水を使っています

水道施設を維持するために

借入金の状況

安定した水の供給を維持するためには、浄水場や配水管などの水道施設を常に整備していかなければなりません。この整備には、億単位のお金が必要になり、手持ちのお金では賄うことができません。そこで、国などから借金をして、おおむね30年をかけて水道料金の中から返済しています(水道事業では、この借金を『企業債』と呼んでいます)。

また、この借金は、現在、水道を利用している市民だけではなく、将来、利用する市民にも公平に負担してもらうという目的もあり、世間一般でいう単純な借金ではありません。

平成14年度末現在で借入元金の残高は、表のとおり53億5,989万円となっています。これを給水人口1人当たり換算すると10万170円になります。

借入先	借入元金	借入元金に対しての利息	合計
政府資金	33億 244万円	12億5,790万円	45億6,034万円
公営企業金融公庫	20億5,745万円	6億7,216万円	27億2,961万円
合計	53億5,989万円	19億3,006万円	72億8,995万円
給水人口1人当たり	10万 170円	3万6,070円	13万6,240円

水道施設整備の状況

平成14年度に実施した工事は、次のとおりです。

区分	工事内容	事業費
送配水管新設工事	幹線となる配水管を布設し、水道水の安定供給を図るための工事を行いました。また、配水管(水道管)が整備されていない公道内に、配水管を布設(整備)し、水圧低下などの解消を図る工事を行いました。	1億3,430万円
送配水管改良工事	赤水発生の解消や地震などの災害に強い水道施設の整備を図るため、老朽化した配水管の改良(更新)工事を行いました。特に地震に弱い石綿セメント管については、ダクタイル鉄管に管種を改良する工事を行いました。	5,876万円
送配水管移設工事	公道の拡幅工事や下水道工事などに伴い、支障となる配水管の移設工事を行いました。	3,257万円
柏木配水池新設工事	低水圧の解消や災害など非常時の安定給水の確保を図るため、柏木配水池の新設工事(本体部分など)を行いました。(15年度完成予定)	3億1,129万円
その他の工事	配水管工事に伴う道路の舗装復旧工事や浄水場の薬注ポンプ取替工事などを行いました。	2,202万円
水道メーター取替工事	計量法で定められている水道メーターの取り替え(8年ごと)の工事を行いました。	2,920万円



建設中の柏木配水池